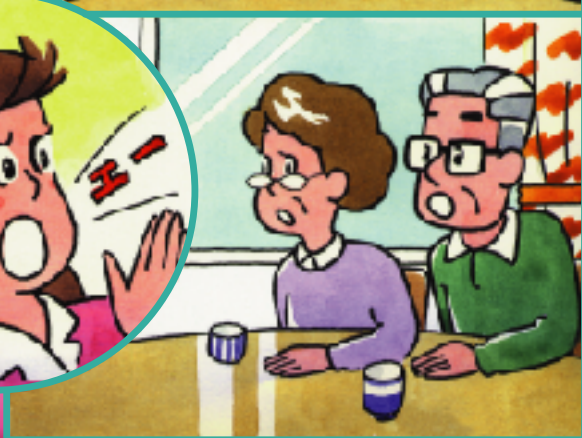


# 世間体って常識？



結婚式の日取りについて相談しています。



「日取りのことだけど、10月の第一土曜日に決めようと思うの」



「彼のご両親はどうなの？ 了解してるの？」



「それがね、彼のお母さんが大安じゃないとだめだといっているのみ」



「なんだ、大安じゃないのがそんなこと常識だぞ！」



「そうよ、世間体もあることだし！」



わたしたちは考えます



カレンダーや手帳に「大安」、「友引」などの記載がされたものを見かけます。これらを総称して「六曜」といいます。

私たちは、ともすれば日常生活の中で新しい門出や祝い事に「大安」を選んだり、葬式の日が「友引」にあたると一日延ばしたりして、日取りを決めることがあります。しかし、六曜は、単に日に吉や凶の意味をもたせた科学的な根拠のない迷信です。「三隣亡」や「丙午」も同じことがいえます。

私たちは、こうした信じていないことに、どうして従うのでしょうか。嫌なことが起こったらどうしようという不安感や、世間の目を重視するあまり、このような「迷信」を受け入れているのではないのでしょうか。

このような根拠のないものに従う姿勢は、世間体を重視した態度になって現れます。差別に直面したときに「差別はいけませんが、世間がそうしているから」といった世間体を重視した態度を生み出します。

ーロメソ

## 六曜(ろくよう)

古代中国にあった「小六壬」という単なる占いが原形で、鎌倉時代末期から室町時代初期に伝来しました。その後変化し、江戸時代の末頃、今のよう形で広まったとされます。明治時代になって、民間で発行される暦には、六曜をはじめ、多数の「日の吉凶」に関する迷信が載せられていて、それが、文明開化の障害になるとして、明治政府は一切禁止しました。

## 三隣亡(さんりんぼう)

この日に建築すると、火災を起こし、近隣三軒を滅ぼすとされます。

## 丙午(ひのえうま)

60年に一度めぐってくる干支の一つ。この年は火災が多く、この年生まれの女性は夫を食い殺すとされています。